

Fig. 6 GEONET観測点の変位データから地震前の経年的トレンドを取り除き, Yagi and Kikuchi (GRL, 2003) の方法により推定されたプレート境界面上のすべりの時空間発展. コンター間隔は0.2mで, 矢印は上盤側プレートのすべりベクトルを示す. 星印は本震の震央を示す.

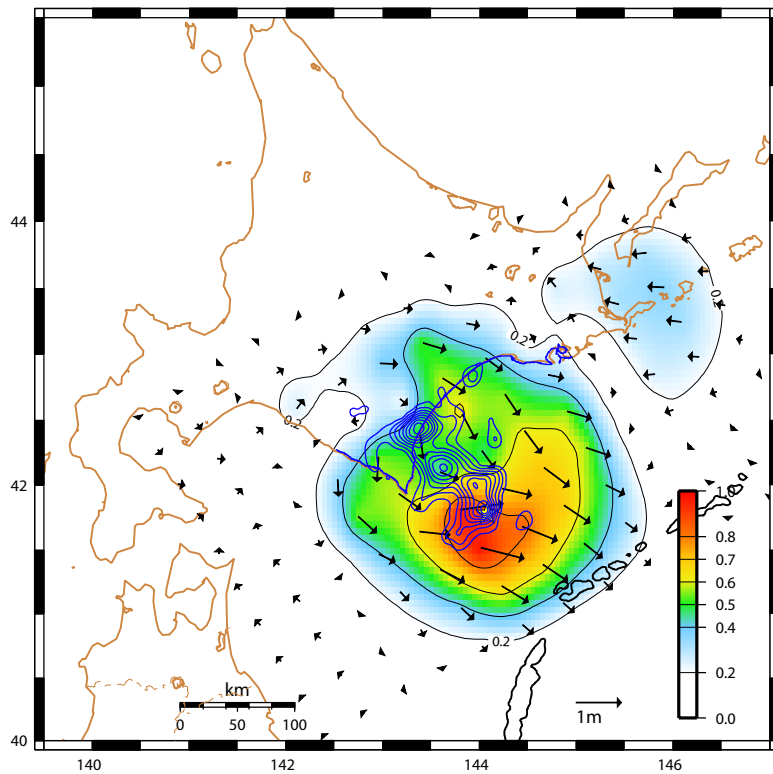


Fig.7 2003年十勝沖地震発生直後から2004年10月31日までの期間で推定されたプレート境界面上のすべりの積算値. コンター間隔は0.2mで, 矢印は上盤側プレートのすべりベクトルを示す. 青のコンターは, Yagi (2004)が遠地実体波および近地強震動波形を使って推定した1.2m以上の本震のすべり量分布を0.6m間隔で示す.

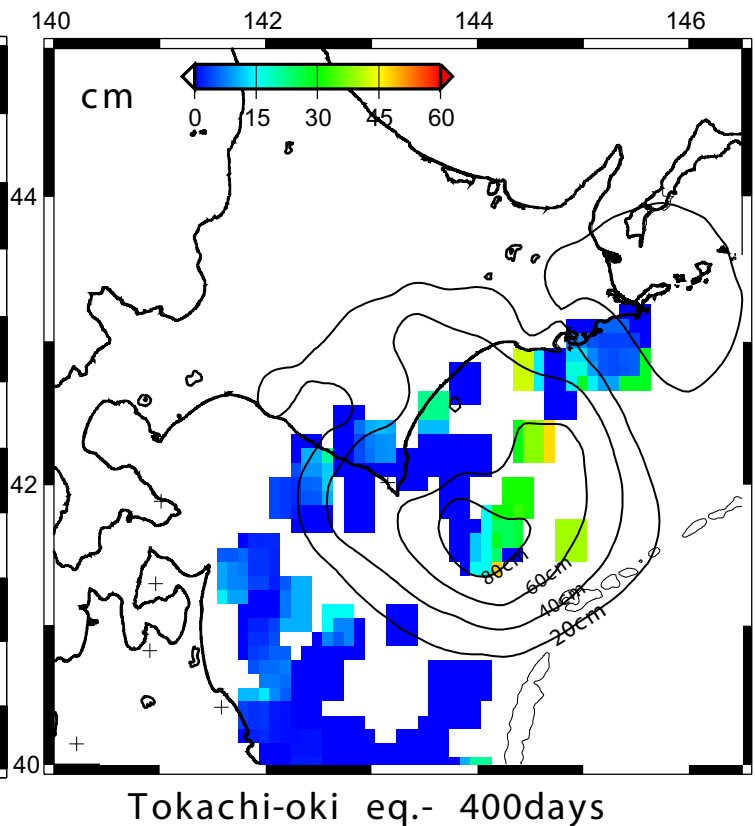


Fig.8 2003年十勝沖地震発生直後から2004年10月31日までの期間に発生した相似地震の解析から推定されたプレート境界面上の準静的すべり(カラーパッチ)とFig.7で示したGPSにより推定された同期間の積算すべり量分布(黒コンター).